

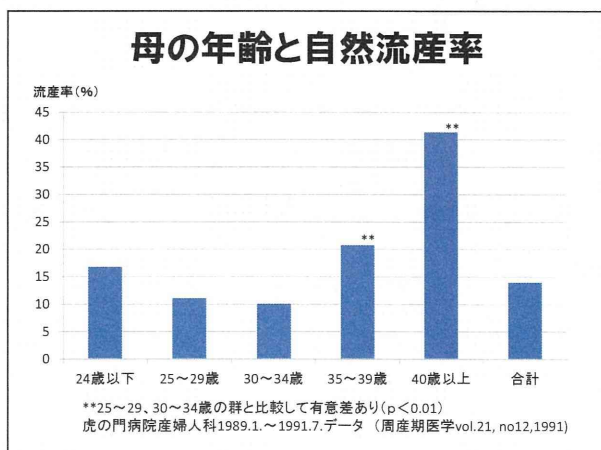
健康な男女が、子供を欲しいと思って、妊娠に適したタイミングで性交渉を持ったとしても、その妊娠率は男女の年齢によって変わります。

このグラフは性交渉を持った日と妊娠率の関係を示しています。

一番大きな山は、女性が19歳から26歳の妊娠率のグラフです。一番小さい山は女性が35歳から39歳の妊娠率のグラフです。

年齢が上がるとともに、妊娠率が低下していることがわかります。

また、男性の年齢が上がると妊娠率が低下することもわかっています。

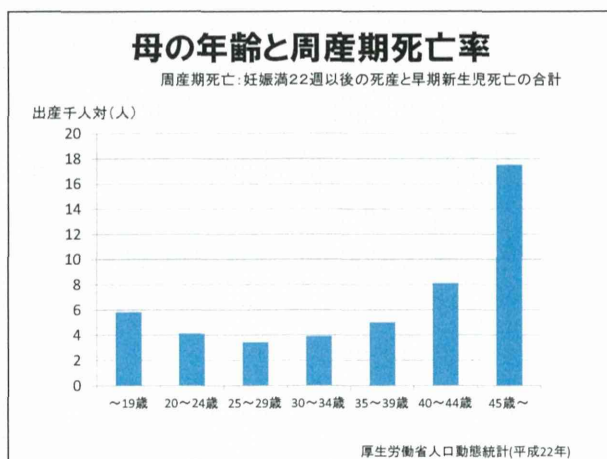


これは、妊婦の年齢と、その自然流産率をグラフで示したものです。

25歳から34歳の年代に比べると、35歳以上では、その頻度が倍増しています。

さらに、40歳以上ではおよそ4倍にもなっています。

(DVD では動画)

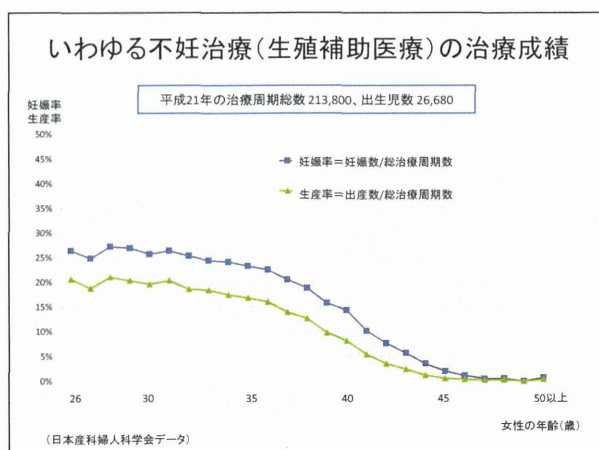


(DVD では動画)

このグラフは、妊婦の年齢とその子供の周産期死亡率を示しています。

周産期死亡とは、妊娠満22週以降の死産と早期新生児死亡の合計です。周産期死亡率は、20代後半が最も低く、10代、30代後半は上昇傾向となります。40歳を超えるとさらに増加し、40代後半では二桁となります。

どんな妊娠・出産にも危険は伴うものですが、年齢によってこれほどにも危険率が違うことはあまり知られていないようです。



(DVD では動画)

(DVD ではイメージ画像もあり)

近年は、不妊治療をうけるカップルも増えてきています。

この図は、不妊治療の1つである、不妊外来での治療を行った場合の成績です。

治療をした回数のうち妊娠した割合を、青線で、出産にまで至った割合を緑色の線で示しています。女性の年齢が上がるにしたがって、低くなるのがわかります。いずれの線もその傾きが下降するのは35歳を過ぎたころであることがわかります。

いつ子どもを産むかは、人生のなかで自分で決めるものです。

正しい情報を知ったうえで、パートナーと一緒に考え、あなたらしい人生を楽しんでほしいと思っています。

いきいき健康であるための の食事

～一日3食でバランスの良い食事を～

(DVDでは、学生のインタビューと内科医からのメッセージあり)

それでは、若い皆さんにとって、将来の健やかな生活を営むために、現在どのような食生活を実現することが望ましいか、一緒に考えてみましょう。

(DVDでは、学生のインタビューと内科医からのメッセージ画像あり)



このイラストの中には、気になる行動や周囲の様子が5つ書かれています。

見つけてみてください。時間は30秒です。

1. 冷蔵庫に減量目標が貼ってある。



- 何か行動を起こすとき、目標を立てたり、周りの人に宣言することはいいことだよ。
- でも、無理な減量は、栄養バランスの乱れにつながり、体調不良の原因にも。
- まずは、減量が必要かどうか、**適正体重**をチェックしてみましょう。

(DVD では動画)

それでは、答え合わせをしていきましょう。

まずはじめに、冷蔵庫に減量目標がはってありましたね。

何か行動を起こすときに、目標を立てたり、周囲の人に宣言することは良い方法ですが、この場合はどうでしょうか。先ほどのイラストの女性は、5kgの減量が必要には見えませんでしたね。

無理な減量は栄養バランスの乱れにつながり、体調不良の原因にもなります。

まずは、適正体重を知り、減量が必要かどうか、再確認してみましょう。

適正体重を知り、維持しましょう

- 適正体重は、体格指数 (Body Mass Index: BMI) で確認します。

$$\text{BMI} = \text{体重 ()kg} \div [\text{身長 ()m} \times \text{身長 ()m}]$$

(例) 160cm、55kgの女性の場合

$$55\text{kg} \div [1.5\text{m} \times 1.5\text{m}] = 21.5$$

区分	BMI
やせ (低体重)	18.5未満
ふつう (標準体重)	18.5以上25.0未満
肥満	25.0以上

BMI22が、
適正体重の
目安です。



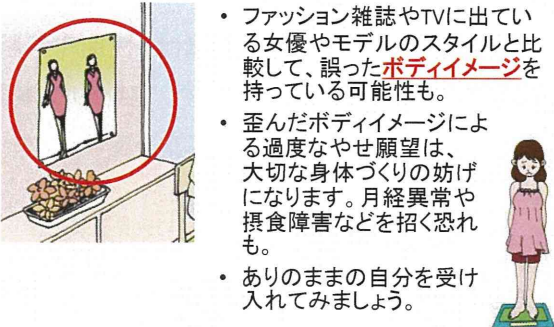
体重を身長²で割った値をBMIと言います。

18.5未満を「低体重」、18.5から25未満を「標準体重」、25以上を「肥満」の目安としています。

日本人男女を対象とした研究で、この値が22くらいで病気のリスクが最も低かったので、適正体重の目安とされています。

身長²に22をかけた値が、適正体重の目安になります。

2. 痩せているモデルのポスターが貼ってある。



- ファッション雑誌やTVに出ている女優やモデルのスタイルと比較して、誤った**ボディイメージ**を持っている可能性も。
- 歪んだボディイメージによる過度なやせ願望は、大切な身体づくりの妨げになります。月経異常や摂食障害などを招く恐れも。
- ありのままの自分を受け入れてみましょう。

(DVD では動画)


次に、痩せているモデルのポスターが貼ってありましたね。

歪んだボディイメージによる過度なやせ願望は、健康な身体づくりの妨げになることもあります。

心が健康であることも、豊かな食生活には大切です。

正しいボディイメージをもちましょう。

3. 話題のダイエットに関する書籍がたくさんある。



- ダイエット方法の多くは、科学的根拠のないものです。
- 減量するつもりが、健康を害していたなんてことにも。
- 情報に惑わされないよう、健康情報を評価・識別できる**メディアリテラシー**を持ちましょう。
- そして、**適度な運動**と、特定の料理法・食品に偏らない**バランスの良い食事**を心がけましょう。

(DVD では動画)

続いて3点目。

このイラストの中にはダイエットに関する本がたくさんおいてありました。

ちまたで騒がれるダイエット法には科学的根拠のないものが少なくありません。

健康情報を冷静に評価・識別できる力を持ちましょう。

「適度な運動」と「バランスの良い食事」に勝るものはありません。



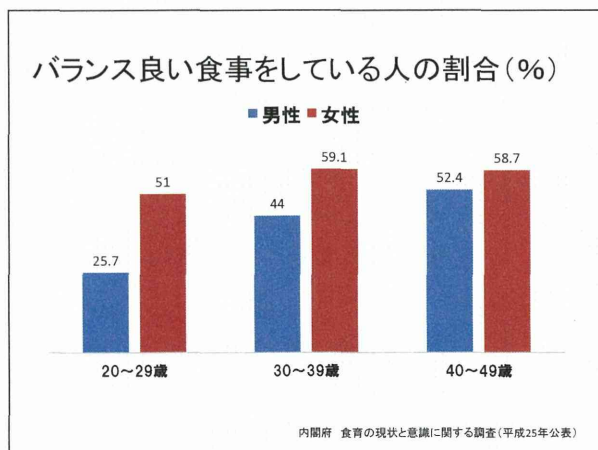
(DVD ではイメージ画像もあり)

では、バランスの良い食生活とはどんな食事内容でしょうか？

1日に必要な食事の量は、性別や年齢、身体活動の量などで、異なります。定期的に体重をはかり、痩せすぎや太りすぎになっていないか、確認してみましょう。

1日2回以上、ごはんやパンなどの主食、肉や魚料理などの主菜、野菜料理などの副菜を組み合わせた食事をとりましょう。

ここに、弁当箱を例にバランスの悪い例と良い例を挙げました。左側の悪い例は、主菜が多く、副菜が少ないですね。野菜料理などの副菜は、不足しがちなビタミン、ミネラル、食物繊維を豊富に含むので、たっぷりとり、牛乳・乳製品、果物も忘れずにとりましょう。

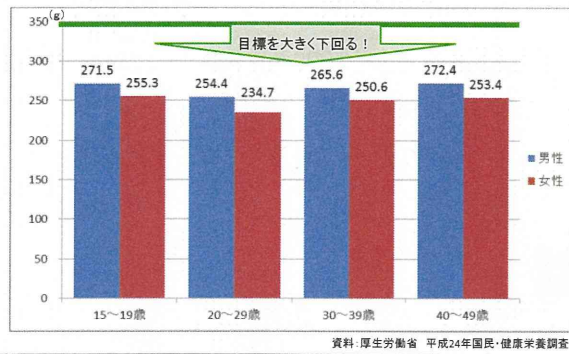


これは、食事をバランスよくとっている人の割合を示したグラフです。

20代の男性では、1日2回以上、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をほぼ毎日摂っている人が4人に1人と大変少なくなっています。

ほかの世代の男女とも、目標を達成できている人はおよそ半数にとどまっています。

野菜類の平均摂取量の現状(15歳～49歳, 男女)



(DVD では動画、イメージ画像もあり)

野菜の摂取量についても見てみましょう。

10代後半から40代の男女のいずれでも、目標となる350gを大きく下回っています。

野菜類のうち、ほうれん草などの緑の葉野菜には、生まれてくる赤ちゃんの神経管閉鎖障害の発症予防に必要な葉酸が多く含まれています。

4. 1人だけ菓子パンとジュースの朝食



(参考)

デニッシュ(1個) 340kcal ごはん軽く1膳 + 味噌汁 +
 果汁入り飲料(200ml) 90kcal 目玉焼き + トマト・レタス = 390kcal

出典) 外食・デリカ・コンビニのカロリーガイド(女子栄養大学出版部), 日本食品標準成分表2010(文部科学省)

- ダイエット中でも、好きなものは食べたい! という気持ちはわかります。でも、菓子パンやジュースは、**以外と高カロリー**。ダイエットのつもりが、太る原因にも。
- **必要な栄養素も少なく**、食事の代わりにはなりません。


4点目は、若い女性の食事内容です。ひとりだけ菓子パンとジュースという朝食のようです。

菓子パンやジュースは意外とカロリーが高く、食事を控えてダイエットしているつもりが、かえってカロリーのとりすぎになっていることもあります。

また、たんぱく質やミネラル、ビタミンなどの必要な栄養素も少ないので、栄養のバランスは崩れてしまいます。





(DVD では動画)

5. お弁当が小さい。



- 1日に必要なエネルギーは、成人女性で**およそ2000kcal**。
- 1日3食とすると、1食あたり600～700kcalになります。
- まずは手軽に取り入れられるサラダなどの副菜や、ヨーグルトなどの乳製品をプラスして、**段階的に食事のバランスを整えていきましょう**。

(コンビニでも揃う。手軽な献立の提案)

主食  副菜  主菜  乳製品 

(DVD では動画)

最後に、若い女性のお弁当です。おにぎりとスープだけのようです。


これでは、若い女性に必要な一日のエネルギーであるおよそ2000キロカロリーを摂れそうもありませんね。

サラダなどの副菜や、ヨーグルトなどの乳製品を加えて、不足するエネルギーと栄養素を加えていく必要があります。

望ましい食生活の実現

～取り入れていただきたい5つのポイント～

明日やればいい(先送り) 行動計画書をつくる(目標を書いて掲げる)



(DVD では動画)

しかし、長年の習慣となっている食生活はなかなか変えられないものです。

皆さんが望ましい食生活を実現するために、取り入れてほしいポイントをご紹介します。

ひとつめです。先送りにしないで、一つでも目標をたてて、気をつけるようにしてみましょう。

たとえば「朝食をきちんと毎日食べる」、「毎食、野菜料理は一品食べる」などです。

目標を立てたら、周りの人に宣言して、協力してもらうのも長続きする秘訣です。



(DVD では動画)

ただし、あまり理想の高すぎる目標にすると挫折しかねません。

実行可能で現実的な目標レベルにしてみましょう。



自炊をしている人は学業と両立できるよう段取り良くする工夫も習得しましょう。

また、忙しい時に応用できる、健康的な外食やお惣菜購入のコツも、身につけましょう。

望ましい食生活の実現に向けて
《主な誘惑と具体的な対策》

自分だけ取り組めない
 (誘惑に負ける)

サポーター(仲間)を見つけて
 いっしょに取り組む(食事を作るなど)



食生活の改善は、仲間と一緒に取り組むと、お互いに励まし合ったり、食事をつくったりして、取り組みも継続しやすくなります。

望ましい食生活の実現に向けて
《主な誘惑と具体的な対策》

飽きっぽい

自分なりの工夫で、楽しみながら、段階的に食事を整えていく



楽しい食事は、健やかな心身の健康づくりに欠かせません。

自分なりに楽しく続けられそうなことを見つけてみましょう。

例えば、1品ずつ料理を持ち寄って、親しい友人と会食することも、栄養バランスを整えることにつながります。

今だけでなく、将来に渡って、 健やかな生活を営むために・・・



- 現在の生活を豊かに楽しむためだけでなく、将来の妊娠、子育てにも、健康な身体と心づくりは大切です。
- 食事はすべての人が生きるために毎日食べるものですが、その積み重ねが将来の健康にも関係していきます。
- 今から少しずつ、段階的に健康づくりに取り組んでいきましょう！



毎日の食事は、その積み重ねが将来の健康に影響を与えます。妊娠、子育てのためにも、健康な身体と心づくりに取り組んでいきましょう。

平成26年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業)
研究課題名:若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究」

研究代表者:

山本真由美(岐阜大学保健管理センター)

研究分担者:

猪飼周平(一橋大学大学院社会学研究科)

高田昌代(神戸市看護大学助産学専攻科)

西尾彰泰(岐阜大学保健管理センター)

林芙蓉(千葉県立保健医療大学健康科学部栄養学科)

松浦賢長(福岡県立大学看護学部)

吉川弘明(金沢大学保健管理センター)

研究協力者:

足立由美(金沢大学保健管理センター)

佐渡忠洋(常葉大学健康プロデュース学部)

堀田亮(岐阜大学保健管理センター)

宮下ルリ子(神戸看護大学助産学専攻科)

画像提供:

日本産婦人科医会

(最後のスライド)

(DVD では、黒地に白文字、バックに音楽あり)

学校名() 年齢()歳 性別(男 女) **講義前**

次の文章を読んで、最もあてはまるものを一つ選んで、その番号を○で囲んでください
わからない場合は、3番を選択してください。

Q1 自分の人生を豊かにするために、年齢を重ねるとどう身体が変化するかを知ることは重要だ。

- 1. そう思う
- 2. そう思わない
- 3. わからない

Q2 女性の月経周期は25日～38日の間が一般的だ。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q3 生理痛がひどいときには我慢せず鎮痛剤を使った方がよい。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q4 月経周期が28日周期の女性では、排卵は月経開始の2-3日前におきている。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q5 分娩予定日は、最終月経から40週間後となる。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q6 妊娠中の母体の栄養状態は赤ちゃんの将来の健康に影響を与える。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q7 緊急避妊薬は性交から3日以降1週間以内に服薬すれば効果がある。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q8 子供を希望するカップルが避妊をしていないのに2年以上妊娠に至らない状態を「不妊症」と呼ぶ。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q9 女性の自然に妊娠する力は年齢とともに低下しはじめる。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q10 不妊症治療の成功率は年齢とともに低下する。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q11 性感染症の中にも、自然に治癒するものがある。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q12 BMI(体重kg÷(身長m×身長m))で、18.5未満を「やせ」という。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q13 妊娠可能な年齢の女性は、赤ちゃんの神経管閉鎖障害の発症リスクを低減させるために葉酸(ビタミンのひとつ)摂取不足にならないようにすることが重要である。

- 1. 正しい
- 2. 誤っている
- 3. わからない

Q14 あなたの結婚に対する考えを教えてください。

自分の一生を通じて考えた場合、最もあてはまるものを一つ選んで、その番号を○で囲んでください。

- 1. いずれ結婚するつもり
- 2. 一生結婚するつもりはない
- 3. 考えたことがない

「1. いずれ結婚するつもり」と答えた人に伺います。

Q14-2 あなたは、何歳ぐらいのときに何歳ぐらいの相手と結婚したいと思いますか。現在の気持ちを教えてください。(希望する年齢を()内に数字で記入してください。わからない人は0(ゼロ)を記入してください)

- 14-2a 自分が()歳ぐらいのときに
- 14-2b ()歳ぐらいの人と結婚したい

Q15 あなたは、将来、子どもが欲しいと思っていますか？

現在の気持ちに近い方のいずれかを○で囲んでください。

- 1. 子どもは欲しくない
- 2. 子どもは欲しい

「2. 子どもは欲しい」と答えた人に伺います。

Q15-2 自分が何歳までに最初の子どもを持ちたいと思っていますか？現在の気持ちに最も近いものひとつを○で囲んでください。(男性は妻ではなく自分の年齢で選んでください)

- 1. 25歳までに
- 2. 25～30歳
- 3. 30～35歳
- 4. 35～40歳
- 5. 40～45歳
- 6. いつでもいい
- 7. わからない

Q15-3 自分が何歳までに子どもを産み終えたいと思っていますか？現在の気持ちに最も近いものひとつを○で囲んでください。(男性は妻ではなく自分の年齢で選んでください)

- 1. 25歳までに
- 2. 25～30歳
- 3. 30～35歳
- 4. 35～40歳
- 5. 40～45歳
- 6. 45～50歳
- 7. 産める限りはいつまでも
- 8. わからない

Q16 仕事と家庭について伺います。あなたは、結婚を契機に、働き方を変えたいと思いますか？現在の気持ちに最も近いものひとつを○で囲んでください。

- 1. 変えない(仕事を同じように継続する)
- 2. 家庭を優先できる働き方に変えたい
- 3. 仕事を辞めたい
- 4. わからない

Q17 仕事と育児について伺います。あなたは、出産を契機に、働き方を変えたいと思いますか？現在の気持ちに最も近い者をひとつ○で囲んでください(男性も妻が出産した時を想定して教えてください)。

- 1. 変えない(職場の育休制度などを利用して同じ仕事を継続する)
- 2. 家庭を優先できる働き方に変えたい
- 3. 子どもが大きくなるまで、一時的に家庭を優先できる働き方に変えたい
- 4. 仕事を辞めたい
- 5. わからない

裏面は講義(あるいはパンフレット読了)後に答えてください。

II. 分担研究報告

高校生と大学生における結婚、挙児希望に関する意識調査－高校生と大学生で異なるか？－

研究分担者 西尾 彰泰（岐阜大学保健管理センター）
研究協力者 堀田 亮（岐阜大学保健管理センター）
研究協力者 佐渡 忠洋（常葉大学健康プロデュース学部）

高校生および大学生の結婚・出産に関する知識・意識を知るために、本研究において、平成 25 年度に実施した質問紙調査の結果を分析した。その結果、高校生・大学生において、結婚や出産を忌避する傾向があるわけではないことがわかった。また、高校生よりも大学生のほうが結婚・挙児を希望する者の割合が男女ともに高く、少なくともこの時期においては、年齢が上がるにつれ、結婚・挙児希望が下がるわけではないことがわかった。不妊、妊孕力、不妊治療に関する知識は、男女問わずいずれ年代でも低い、高校生より大学生、男性より女性の方が、知識を有していると人の割合は高いことが示された。結婚・出産希望に影響を与える各種背景について分析したところ、高校生においては、家庭の経済力の影響を強く受ける一方、大学生においては、将来への経済不安の影響が強くなることがわかった。大学生では、健康状態、健康への関心が高いほど、結婚・出産を希望する者の割合が高くなるという傾向が見られた。

A. 研究目的

近年、我が国では急速に少子化が進行している。厚生労働省人口動態統計月報年計¹⁾によれば、15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計した値である合計特殊出生率は、1974年、自然増加から自然減少に移行する境である2.07を下回ったのち下降を続け、1989年には史上最低の1.57を記録した。この「1.57」ショック以降、厚生省(当時)は「これからの家庭と子育てに関する懇談会」を設置し、出生率を回復するための様々な支援策を講じたが、合計特殊出生率はさらに低下し、2013年においても1.43と低迷が続いている。この背景にある原因のひとつとして、婚姻率の低下と晩婚化が考えられる。婚姻率(人口千人対)は、昭和40年代に10.0以上であったが、その後は低下傾向となり、2013年には5.3まで低下している。また、初婚の妻の平均年齢は、1971年の24歳から上昇を続け、2012年には29.2歳にまで至っている。これに伴い、少子化のもうひとつの原因と考えられる晩産化も進み、第1子出生時の母親

の平均年齢は、平成23年には、ついに30歳を超えた。晩婚化の進行は妊娠適正年齢を逃すことによる不妊を、また晩産化の進行は母体の高齢化によるハイリスク妊娠の増加をもたらす要因の一つとなり、女性や新生児の健康を損ねかねない。これらの少子化、晩産化の背景には、社会構造、労働条件、経済状況、個人の価値観など多くの要素が複雑に絡んでいるため、原因はひとつではなく、その対策も様々なアプローチが考えられるだろう。ただ、若い男女が早期から妊娠時期やキャリアデザインなどの人生設計について考えるための機会が提供されていたならば違う選択もあったかもしれないと考えられることもあり、若い男女に対して妊娠・出産やライフプランに関する教育を行うことが有効ではないかと期待される。そこで、どのような教育内容が必要かつ有効であるかを考えるために、高校生と大学生の結婚・出産に関する意識・知識と、それに影響を与える要因について調査・解析を行ったので報告する。

B. 研究方法

協力の得られた11校の大学生1,189人と、6校の高校生1,866人に対して、授業時間等に、結婚・出産の意識に関する質問と、性別・年齢、家族構成、将来のキャリアデザインなどに関する自記式による質問調査を行った。質問票は無記名で、その場で回収した。調査の結果は、JMP ver.10® (SAS, 東京)を用いて交差分析により解析した。尚、本解析は、平成25年度厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究」で得られたデータの一部を使用した。

(倫理面への配慮)

調査に際して、「回答は成績や評価などと全く関係なく、回答したくない者は回答用紙を提出しなくてもよく、それにより不利益を被ることがないこと」が伝えられた。岐阜大学大学院医学系研究科倫理審査委員会の承認(承認番号 25-268)を得ている。

C. 研究結果

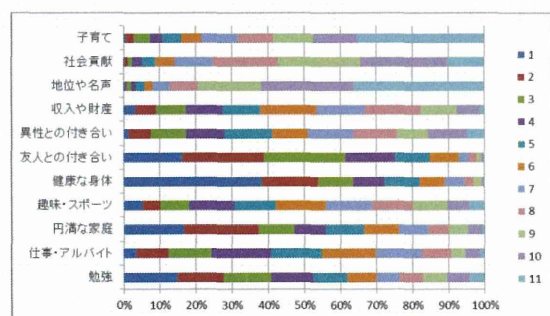
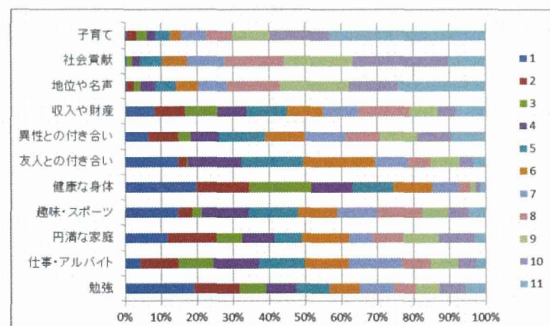
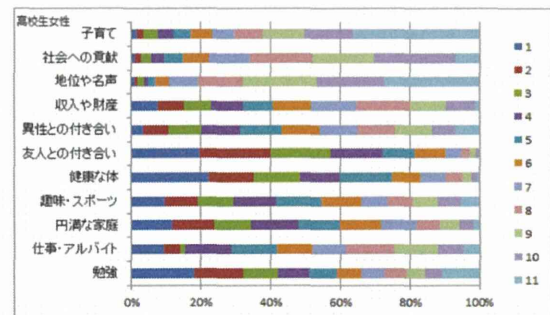
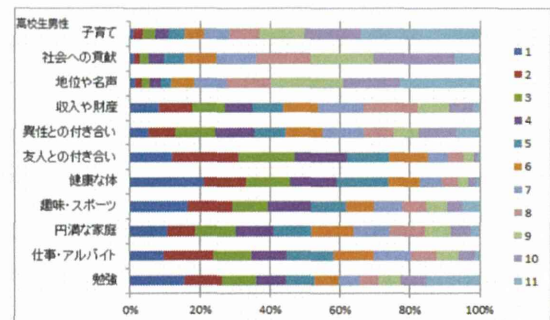
調査期間は2014年1月～2月の2ヶ月間で、対象者の性別内訳は、高校生(男性1,108人、女性727人、無回答31人)、大学生(男性267人、女性914人、無回答8人)であった。また、平均年齢は高校生で16.5 ± 0.83歳(15歳～24歳)、大学生で19.9 ± 1.81(17歳～46歳)であった。解析に際しては、設問毎に無効回答を除外したが、ひとつでも無効回答のある者の全ての回答を除外することはしなかった。

1. 人生の中で重視すること

人生の中で重視することを、勉強、仕事、家庭、趣味、健康、友人、恋愛、収入、地位・名声、社会貢献、子育ての11項目の中から順序づけしてもらったところ、「子育て」は、男子学生、女子学生ともに11番目と最も関心が低いことがわかつ

た。反対に、男子学生、女子学生ともに「健康な身体」に対する関心が最も高いことがわかった(図1)。

図1 質問「現在のあなたが、人生の中で重視することについて教えてください。以下にあげた項目について、今のあなたが大切だと思う順番に順位をつけてください」に対する回答1～11の割合(図は高校生男性、高校生女性、大学生男性、大学生女性の順)



2. 結婚希望、挙児希望、欲しい子供の人数、初産の年齢

結婚希望に関する質問で、「いずれ結婚するつもり」、「一生結婚するつもりはない」、「考えたことがない」の3つから選択回答させたところ、高校生では、男性の72%、女性の81%、大学生では男性の78%、女性の91%が「いずれ結婚する」を選択し、「一生結婚するつもりはない」と答えた者はいずれの集団においても5%以下であった(図2)。結婚を希望する年齢の平均は、高校生においては、男性25.0±4.0、女性23.8±2.2歳、大学生においては、男性26.8±2.8、女性25.9±1.9歳であった。挙児希望に関して、「子供は欲しい」、「子供は欲しくない」の2つから選択させたところ、高校生では、男性の84%、女性の88%、大学生では、男性の86%、女性の93%が挙児を希望していた(図3)。何歳までに第1子を持ちたいかという質問に関しては、高校生と大学生で大きな違いがあった。高校生では、男性の30.2%、女性の50.4%が25歳までに産みたいと答えたが、大学生では、男性6.6%、女性14.3%と少なかった。男子大学生では、(自分が)35歳までに子供を持ちたいと答えた者が21.9%おり、高校生に比べると大学生の方が晩産化に移行する傾向がみられた(図4)。

図2: 質問「あなたの結婚に対する考えを教えてください。自分の一生を通じて考えた場合、最もあてはまるものひとつを○で囲んでください」

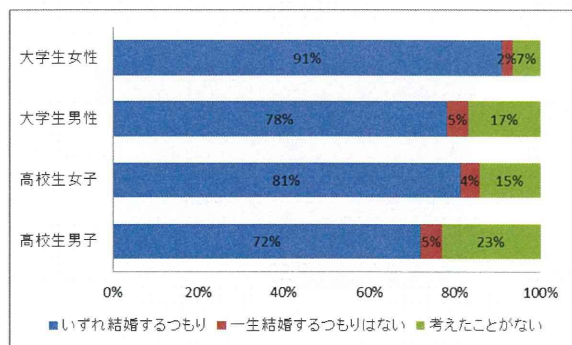


図3: 質問「あなたは、将来子供が欲しいと思っていますか?現在の気持ちに近い方のいずれかを○で囲んでください」

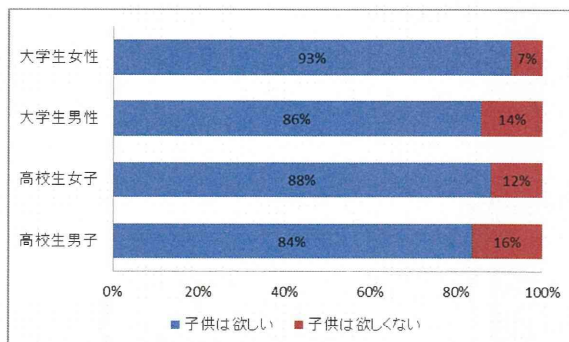
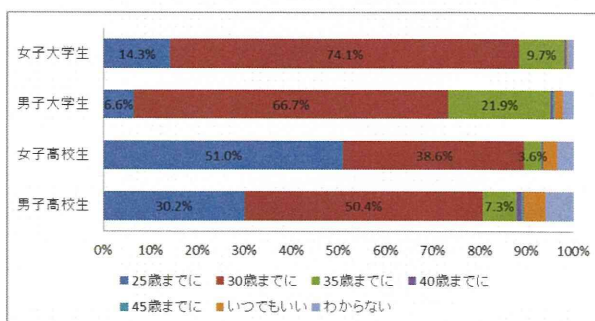


図4: (子供が欲しいと答えた人のみ回答) 質問「自分が何歳までに最初の子供を持ちたいと思っていますか?現在の気持ちに最も近いものひとつを○で囲んでください。(男性は妻ではなく自分の年齢で選んでください)」

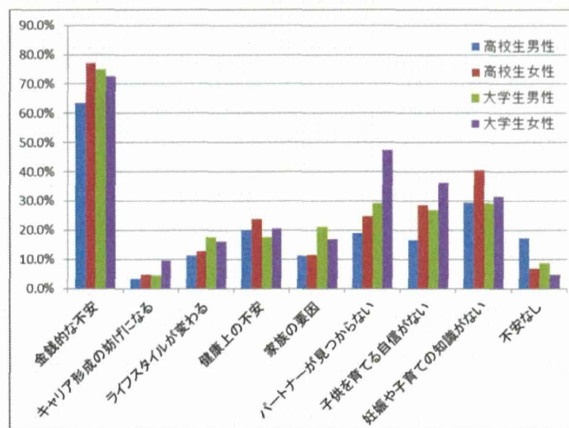


3. 将来の子育てに関する不安

子供を持つことに対する不安について、「金銭的な不安」「キャリア形成の妨げになる」「ライフスタイルが変わってしまう」「健康上の不安」「家族の要因による不安」「パートナーが見つからない不安」「子供を育てる自信がない」「妊娠や子育てへの知識や情報の不足」の中から複数回答で選択させたところ、高校生・大学生の男女ともに圧倒的に金銭的な不安をあげるものが多かった(図5)。次に、「子供を育てる自信がない」、「妊娠や子育てへの知識や情報の不足」をあげるものが全体的に多かった。また、大学生の女性においては、目立って「パートナーが見つからない」

という不安が強かった。

図5: 質問「将来、あなたが子供を欲しいと思ったときに、もし不安があるとしたらどのようなことですか？現在、想像できる範囲で教えてください。(あてはまるもの、すべてを○で囲んでください)」



4. 不妊、妊孕力、不妊治療に関する知識

「子供を望むカップルが避妊していないのに、2年以上妊娠しないこと」を不妊の定義であると知っていたのは、高校生で、男性 20.7%、女性 33.0%、大学生では、男性で 26.2%、女性 36.2%であった(図6)。「女性の妊娠する能力が30歳を過ぎた頃から少しずつ低下すること」を、「よく知っていた」、「少しは知っていた」、「全く知らなかった」の3段階から選択させたところ、前者について「よく知っていた」と答えたのは、高校生では、男性 13.7%、女性 22.3%であり、大学生では、男性 30.0%、女性 41.9%であった。高校生の男性では、「全く知らなかった」と答えた者が 36.1%いたが、女性では「全く知らなかった」と答えたものは男性より少なく、大学生ではより少なかった(図7)。「不妊治療を受けていても女性の妊娠する能力は年齢と共に少しずつ低下すること」についても、同様に「よく知っていた」、「少しは知っていた」、「全く知らなかった」の3段階から選択させたところ、「よく知っていた」と答えたのは、高校生で、男性の 8.0%、女性の 14.1%、大学生で、男性の 19.4%、女性の 31.0%で

あった。前問と同様に、男性よりも女性が、高校生よりも大学生のほうが、知っていると感じた者が多かった(図8)。

図6: 質問「子供を希望するカップルが避妊をしていないのに2年以上妊娠しない場合、不妊と呼ぶことをあなたは知っていましたか？(どちらかひとつを○で囲んでください)」

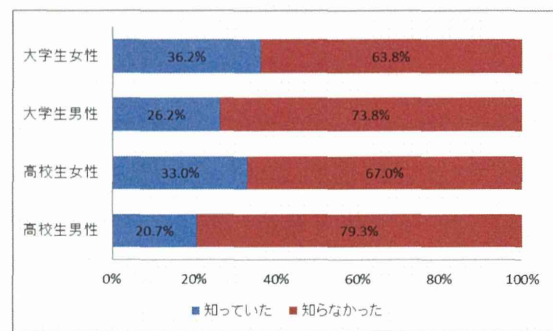


図7: 質問「女性の妊娠する能力は、30歳を過ぎた頃から少しずつ低下することをあなたは知っていましたか？(いずれかのうち、ひとつを○で囲んでください)」

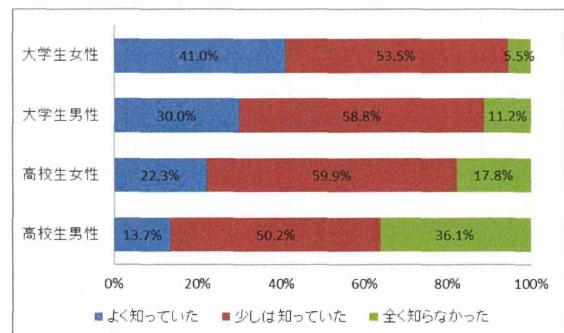
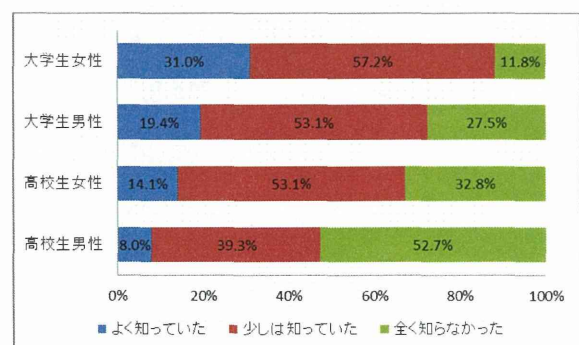


図8: 質問「不妊治療を受けていても、女性の妊娠する能力は年齢と共に少しずつ低くなることをあなたは知っていましたか？(いずれかのうち、ひとつを○で囲んでください)」



5. 結婚、挙児希望に影響を与える要素

表1、表2に、それぞれ高校生と大学生における結婚希望と、「将来への経済不安」、「実家の経済力」、「現在の健康状態」、「健康への関心」、「主食・主菜・副菜の揃った食事の頻度」との関係を示す。表3、表4に、高校生、大学生における挙児希望と、上記項目に加えて、「結婚後の就労意識」との関係を示す。尚、アンケートの回答時は、「将来への経済不安」、「実家の経済力」「健康への関心」の質問に対する回答は5段階であるが、解析時には上位2段階と中位、下位2段階の3群に分けた。例えば、「(実家の経済力が)上」と「中の上」を「実家経済力高い」群、「中の中」を「実家経済力普通」群、「中の下」と「下」を「実家経済力低い」群と3群間で集計し、分析を行った。また、結婚の希望については、「わからない」を含む3つの回答から1つを選択する形式であったため、解析時には「わからない」と回答した者は除外している。一方で、挙児希望に関する質問は、挙児を「希望する」と「希望しない」の2つの回答から1つを選択させる形式であった。オッズ比については、経済不安など概念的に順序があるものについては、中位の集団を1として、上位と下位の群の頻度比率を算出したが、仕事と家庭に関する質問については、「結婚して仕事を変えない」を選択した群を1として他群の比率を算出した。また、本解析については、関係する設問の回答にひとつでも無効回答がある場合は、その対象のデータを全て除外して解析した(有効回答率:高校生 1338人/1858人, 72.0%、大学生 1023人/1181人, 86.7%)。

高校生と大学生では、参加者の男女比が異なるために単純に比較することはできないが、以下のような傾向が見られた。まず、経済不安を感じているかという質問に対して「どちらとも言えない」(普通)と答えた高校生において、結婚を希望する者の割合が最も高かったが、大学生にお

いては、経済不安の強さと結婚を希望する者の割合の間には負の相関が見られた。また、実家の経済力が「上」または「中の上」と答えた者は、高校生、大学生ともに、結婚を希望する学生が多く、「下」または「中の下」と答えた学生は、結婚を希望する学生が少なく、実家経済力と結婚希望の間には正の相関があった。次に、現在の健康状態が良いと答えた高校生と、普通と答えた高校生においては、結婚を希望する者の比率に差は認められなかったが、健康状態が悪いと回答した高校生においては、結婚を希望する者が少なくなる傾向がみられた。自分の健康に、「あまり関心がない」、あるいは「全く関心がない」と答えた高校生は、「普通」と回答した者と比べて、結婚を希望する者が有意に少なかった。逆に、大学生においては、健康状態、健康への関心と結婚を希望する者の割合には正の相関が見られた。食生活に関して、高校生では特別な傾向は見られなかったが、大学生においては、主食・主菜・副菜が揃った食事を取る回数が1日1回未満の群で、結婚を希望する者の割合が高い傾向が見られた。

挙児希望と経済不安の関連では、経済不安に対して「どちらでもない」と答えた高校生(中位群)は、子供を持ちたい者の割合が高く、経済不安が強い高校生は、経済不安は普通と回答した高校生よりも、子供を希望する者の比率が有意に低かった。大学生においては、経済不安の強さと子供を持ちたい者の割合は負の相関を示した。また、実家の経済力は、高校生・大学生ともに、子供を希望する者の割合に正の相関を示した。現在の健康状態、自身の健康への関心は、高校生・大学生ともに、挙児希望に対して正の相関関係を示した。食事習慣と挙児希望の関係については、高校生・大学生ともに、一定の傾向は見られなかった。「結婚を契機に働き方を変えたいと思いますか」という質問に対して、高校生・

大学生ともに「家庭を優先したい」と答えた者において、挙児を希望する者の割合が高かった。しかし、「仕事を辞める」と答えた群は、高校生で挙児希望の割合が上がり、大学生では挙児希

望の割合が下がった。高校生では、結婚後の働き方について「わからない」と答えた者は、「仕事を変えない」と答えた者より、挙児希望の者の割合が有意に低かった。

表1：結婚の希望と、参加者の各種背景との関係（高校生）

			人数		割合(%)		OR	オッズ比	
			結婚したい	結婚したくない	結婚したい	結婚したくない		95%CI	p
経済関連	経済不安	弱い	220	12	94.8	5.2	0.746	0.345-1.615	0.539
		普通	344	14	96.1	3.9	1		
		強い	698	50	93.3	6.7	0.568		
	実家経済力	高い	185	4	97.9	2.1	2.607	0.312-1.034	0.073
		普通	692	39	94.7	5.3	1		
		低い	385	33	92.1	7.9	0.658		
健康関連	健康状態	良い	816	46	94.7	5.3	0.911	0.408-1.059	0.1
		普通	253	13	95.1	4.9	1		
		悪い	193	17	91.9	8.1	0.583		
	健康への関心	高い	822	47	94.6	5.4	0.548	0.489-1.699	0.875
		普通	287	9	97.0	3.0	1		
		低い	153	20	88.4	11.6	0.24		
食生活	主食主菜副菜の揃った食事	1日2回	597	31	95.1	4.9	1.136	0.281-1.214	0.184
		1日1回	339	20	94.4	5.6	1		
		1日1回未満	326	25	92.9	7.1	0.769		

**p < 0.01

表2：結婚の希望と、参加者の各種背景との関係（大学生）

			人数		割合(%)		OR	オッズ比	
			結婚したい	結婚したくない	結婚したい	結婚したくない		95%CI	p
経済関連	経済不安	弱い	279	6	97.3	2.7	1.704	0.591-4.914	0.397
		普通	191	7	97.1	2.9	1		
		強い	520	20	95.6	4.4	0.953		
	実家経済力	高い	220	6	97.2	2.8	1.085	0.406-2.237	1
		普通	507	15	96.4	3.6	1		
		低い	263	12	95.3	4.7	0.648		
健康関連	健康状態	良い	666	19	97.2	2.8	1.29	0.304-1.382	0.304
		普通	163	6	96.4	3.6	1		
		悪い	161	8	95.3	4.7	0.741		
	健康への関心	高い	815	17	98.0	2.0	3.079	0.523-3.191	0.61
		普通	109	7	94.0	6.0	1		
		低い	66	9	88.0	12.0	0.471		
食生活	主食主菜副菜の揃った食事	1日2回	236	10	95.9	4.1	1.12	0.262-2.093	0.786
		1日1回	274	13	95.5	4.5	1		
		1日1回未満	480	10	98.0	2.0	2.277		

* p < 0.05